

政府メタデータ共通項目 小委員会の活動紹介

令和 7 年 12 月 12 日

RDUF

政府メタデータ共通項目小委員会

本日の発表内容

1. 政府メタデータ共通項目小委員会紹介
2. 2025年12月までの活動
3. 今後の活動予定

1. メタデータ共通項目とは

(公的資金による研究データの管理・利活用に関するメタデータ)

(<https://www8.cao.go.jp/cstp/metadatainstructions.pdf>)

助成情報

データ内容

利活用

内容データ

管理情報

項目	必須/任意	備考
1 資金配分機関情報	必須※	公募型の研究資金を配分した資金配分機関（府省含む）の名称（英語略称可） 公募型の研究資金以外の場合は記入不要
2 体系的番号におけるプログラム情報コード	任意	公募型の研究資金の場合は、体系的番号のうち、「機関コード」および「施策・事業の特定コード」を表すコード 公募型の研究資金以外の場合は記入不要
プログラム名	任意	競争的研究費制度の名称
3 体系的番号	必須※	公募型の研究資金の場合は、研究費ごとに付与される体系的な番号 公募型の研究資金以外の場合は記入不要
プロジェクト名	必須※	プロジェクトの研究代表者が統括する研究開発の範囲の名称（e-Rad課題名称等） 公式な名称がない場合は、研究者の所属機関のルールに従って入力
4 データNo.	必須	管理対象データを特定するための番号
5 データの名称	必須	学会資料、報告資料、測定結果などの中身の分からない名称は避ける
6 掲載日・掲載更新日	必須	メタデータを公開した日、更新した日
7 データの説明	必須	端的かつ中身の分かる内容を記載
8 データの分野	必須※	e-Radの研究分野（主分野）
9 データ種別	必須	「データセット」等を指定する。
10 概略データ量	任意	管理対象データの概ねのデータ容量、またはシステムから出力される値
管理対象データの利活用・提供方針	必須	ライセンス情報等の利用条件や制約条件を記載
11 アクセス権	必須	公開／共有／非共有・非公開／公開期間猶予から選択
公開予定日	必須	公開期間猶予を選択した場合、公開予定日を記載
12 リポジトリ情報	必須	現在のリポジトリ情報、あるいはプロジェクト後のリポジトリ情報
リポジトリURL・DOIリンク	任意	情報があれば記載
13 データ作成者	任意	管理対象データを生み出した研究者の名前
データ作成者のe-Rad研究者番号	任意	管理対象データ作成者のe-Radの研究者番号
データ管理機関	必須	各データを管理する研究開発を行う機関の法人名
データ管理機関コード	任意	データ管理機関のコード
14 データ管理者	必須	データ管理機関において各管理対象データを管理する部署名または担当者の名前
データ管理者のe-Rad研究者番号	任意	研究者番号がない管理者や、管理者が組織の場合は不要。e-Rad研究者番号を非公開にしたい場合を除き必須
データ管理者の連絡先	必須	データ管理者の所属機関の住所や電話番号、メールアドレス等
15 備考	任意	

※公募型の研究資金による研究活動の場合

1. 政府メタデータ共通項目小委員会提案書 概要

近年、研究データの管理が進展

政策の整備 情報システムの整備 メタデータ（共通項目）の決定



しかしながら、データ管理の実践は進んでいない。

一つの原因 共通項目の記載に研究者の負担が大きいこと。



研究者を中心に関係者が共通項目をレビュー

- ・システムで対応可能な部分（既存DBの情報の利用PIDの活用など）
- ・支援者が支援できる部分
- ・研究者が記入しなければいけないコアな部分（最小限にしたい）

を明確化

- ・多様な実際の事例を想定して、必須/任意の見直しなどのレビュー
- ・メタデータ項目の設定という枠組みのあり方についても模索



研究者等によるレビュー結果及び分析

今後の共通項目についての提案

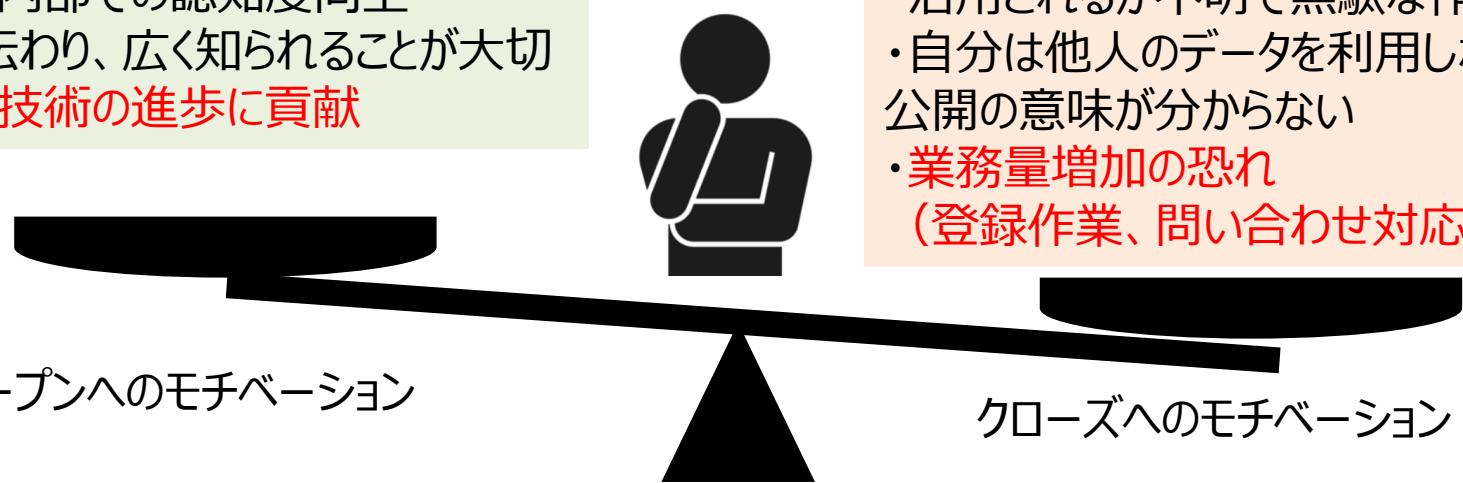


研究コミュニティでの活用
政府方針検討の一助

1. 研究データを オープンにするかクローズにするか

- ・成果の信頼性向上
- ・科学的業績になる
- ・情報発信力強化による国際的に優れた研究チームへの参加
- ・学界内部での認知度向上
- ・早く伝わり、広く知られることが大切
- ・科学技術の進歩に貢献

- ・他人の悪用の心配
- ・誰がどのように利用するか不安
- ・競争力の喪失
- ・間違った解釈の恐れ
- ・活用されるか不明で無駄な作業では
- ・自分は他人のデータを利用しないので公開の意味が分からない
- ・業務量増加の恐れ
(登録作業、問い合わせ対応)



主観的な項目が多く、多忙から全てクローズにすることも可能。

新たに発生するメタデータ登録作業のストレスを下げ負担感を減らすこと、論文同様に業績として認められここに記したメリットが実感できることが、オープンデータ推進には重要

1. 政府メタデータ共通項目小委員会(メンバー)

氏名(敬称略)	所属
田辺 浩介	物質・材料研究機構
南山 泰之	東京大学社会科学研究所
能勢 正仁	名古屋市立大学
住本 研一	科学技術振興機構
鹿沼 智美	国立情報学研究所
高津 佳宏	海洋研究開発機構
八塚 茂	製品評価技術基盤機構
武部 竜一	※外部非公開
飯室 聰	国際医療福祉大学
長井 圭治	金沢大学
岡山 将也	日立コンサルティング
叢 艷	名古屋大学
村山 泰啓	情報通信研究機構、京都大学附属図書館
三角 太郎	三重大学
林 和弘	科学技術・学術研究所(NISTEP)

現在 15名

2. 2025年12月までの活動

- ◆ 現在、共通項目に即したデータ登録上での課題や、問い合わせ事項の確認・共有
- ◆ 実例（GakuNin RDM, JAIRO Cloud, 科研費電子申請システム, DMP作成支援システム（金沢大学）, GRANTS Data, J-STAGE Data, 名古屋大学学術リポジトリ等）におけるデータ登録上の課題や、負担感の共有
- ◆ 既存DMPを活用した入力負荷を低減するシステム構想の紹介
個人ID→参画研究資金のDMP→各種情報入力支援

2. 2025年12月までの活動

出てきた課題例

- データ管理者の定義 (登録研究者か、所属機関のデータ管理部署か、データ管理機関か)
- メールアドレスの取り扱い (スパムメールを招きかねない)
- データNoは必須なのか (必須にするほど重要な情報か)
- ライセンス項目の記載方法など (何を記載すれば良いのか。)
- 体系的番号を持たない内部プロジェクト等の成果の取り扱い
- 体系的番号等が公知されておらず、支援者等が一元的に検索できない。(内閣府などで公表できないか。)
- 研究者に、メタデータ項目毎の収集の意義 (利用例) が伝えられていない状況

3. 今後、本小委員会で実施すること

- 実際に研究者に、データのメタデータを入れてもらい、負担感のある箇所や入力するのに迷う箇所を調査（2025年12月～2026年1月）
→自分の関与しているシステムにおける感触は収集したが、実際に研究者自身の反応が聞けていない。またシステム特有の対応箇所（例；リポジトリとメタデータ入力が一体化しているので、いくつかは自動入力可能）があり、共通項目そのものでは無い。幅広い声を聞けないと、汎用性が失われてしまう。

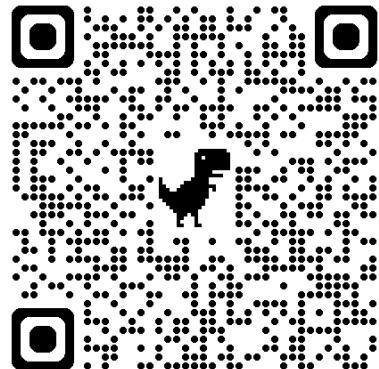
データを持っており、ご協力頂ける方はご連絡ください。

- 上記調査のレビュー・分析を行い、ネック箇所の解決策を検討する。（2026年2月～4月）
- 報告書にまとめる（2026年5月～8月）

ご静聴ありがとうございました

是非とも多くの方の参加・ご協力を
お願いします

参加申し込み



https://form2.jst.go.jp/s/rduf_Subcommittee_participation

入力調査協力申し込み



common_metadata@mr.jst.go.jp